

Contents

- 01 巻頭言
芦田 昭充「不屈の心と、行動を」
- 02 特集
「地域主権型道州制」
実現のために
- 11 リレートーク
柏木 斉「落語目線。」
- 12 委員長インタビュー
少子化対策検討委員会 森川 智
医療制度改革委員会 高須 武男
市場を中心とする
経済社会のあり方検討委員会 秦 喜秋
- 15 経済同友最前線
少子化対策検討委員会 提言
「次世代につなげる
実効ある少子化対策の実施を」
医療制度改革委員会 提言
「抜本的な医療制度改革への提言」
市場を中心とする経済社会のあり方検討委員会 提言
「市場を中心とする健全な経済社会への道」
2010年6月(第93回)
景気定点観測アンケート
2010年度第1回会員懇談会
田嶋 幸三 日本サッカー協会 専務理事
「FIFAワールドカップ：2010年南アフリカ
大会の展望と2022年の日本招致について」
- 23 コペンハーゲン通信
「“Bright Green Island”の挑戦」
- 24 新入会員紹介
2010年5月21日現在の入退会者
- 25 同友会スケッチ
2010年5月の記録と7月の予定
- 26 私の思い出写真館
鰐淵 美恵子
「サウジアラビア王国と日本のかけ橋
開けゴマ! 作戦」



副代表幹事
経済情勢・政策委員会 委員長
芦田 昭充
商船三井
取締役会長

不屈の心と、行動を

クリント・イーストウッド監督の最新映画『インビクタス—負けざる者たち』が、先日公開された。南アフリカ共和国で15年前に開かれたラグビーワールドカップの実話を基にした映画だ。黒人初の大統領を務めたネルソン・マンデラ氏の人生を縦軸に、同国代表チーム「スプリングボックス」を横軸に、人種の壁を越えて国を変えていく姿を描いていた。魂が高揚し胸が熱くなる話で、繰り返される詩が私の心を揺さぶった。それは映画のタイトルであり「不屈」という意味を持っている。

「無ざんな状況においてさえ 私はひるみも叫びもしなかった
運命に打ちのめされ 血を流しても 決して屈服はしない」

「門がいかに狭かろうと いかなる罰に苦しめられようと
私かわが運命の支配者 私かわが魂の指揮官なのだ」

(ウィリアム・アーネスト・ヘンリーのインビクタス 原詩の一部抜粋)

世界中の経済を大混乱に陥らせたリーマン・ショック。当社も2008年秋からその渦に巻き込まれ、船隊整備計画の見直しやさまざまな経費削減などを強いられた。浮上の糸口が見えてきたところだが、その半面「二番底や三番底の可能性がある」と述べる経営者の識見に大きな疑問を覚えた。経営者自ら「価格が下落する」とか「今後マーケットは下がる」などと発言し、いたずらに商品価値を自ら下げ、その会社・業界の前途を悲観するのはいかなるものだろうか。

「悲観主義は気分に基づき、楽観主義は意志に基づく」。フランスの哲学者アランはこう看破した。悲観からは展望は生まれず、経営者すなわち指揮官は「行動」を伴うべきだ。人事を尽くして天命を待つべきであり、いたずらにひるんだり叫んだりしても運すら味方してくれないであろう。

アパルトヘイトの国の中で、アフリカ民族会議を率いたマンデラ氏は約30年もの間、ロベン島(当社の船も寄港するケープタウンの沖)の獄中生活をこの詩を支えに送った。彼が状況に悲観して諦めていたら、人種対立を解消する契機の一つが生まれることはなく、南ア一国が変わることはなかっただろう。歴史の中でいかなる運命にさらされようとも、国家や企業そして自分たちの運命を自分で決めていく。それこそが、不屈のスピリットに基づく「行動」だ。

各国の海運会社もリーマン・ショックで「無ざんな状況」に陥った。各種船舶の需要が甚だしく低迷したが、世界の海上荷動きは回復しつつあり、来年・再来年にかけてさらに回復の足を速めよう。原油やコンテナ貨物、石炭・鉄鉱石などのばら積み貨物など、リーマン・ショック以前のレベルに回復するはずだ。われわれ海運会社も悲観論にとらわれず意志を強固に保ち、グローバル化に目を向けて行動する＝「わが魂を指揮」することが肝要だ。いかなる障害が立ちまはるかろうとも、屈服せずに。